



～取り壊される校舎での最後の思い出づくりを～
小学校向けサポートプログラム



実施事例 札幌市立二条小学校



2017年2月20日に、札幌市立二条小学校にて、「校舎の思い出プロジェクト」を実施しました。



札幌市立二条小学校の先生方にお話を伺いました

本校は昭和25年に移転した教育大学の附属小学校の校舎を使って開校しました。昭和35年に体育館が改築、そして昭和44年に校舎が建て替えられました。体育館は約60年、校舎は約50年ずっと子どもたちを見つめ、守ってきました。今年の卒業生を含めて7,767名がこの学び舎を巣立っていきました。（本間教頭先生）



本間教頭先生

「校舎の思い出プロジェクト」を行うことになったきっかけについてお聞かせください。

建て替えが決まり、旧校舎とのお別れをどのようにしようかと考えていた時にこの企画を知り、子どもたちの思い出になるのではと思い、ぜひ参加させていただきたいと思い立ちました。（中島校長先生）

「校舎の思い出プロジェクト」のサポートプログラムはいかがでしたでしょうか？



河本先生

画材を豊富に用意して下さったことで、子どもたちの発想がより生き生きとしたものとなりました。「ぼくは、壁にたくさん水色を塗りたい。」「私は、クレヨンで星形を線取りしてはみ出さないようにしたい。」などの子どもたちの思いを支えるサポートがあったため、思い切った活動を展開することができました。その結果として、今回のような多様で瑞々しい表現につながりました。

また、全校を代表した数名の子どもカメラマンは、「みんなの思いを次の世代に残す」といった大きな責任とともに、中には不安を感じている子もいました。しかし、事前にプロのカメラマンから手ほどきを受けたことにより、自信をもち、やりがいと楽しさを感じながら撮影に臨むことができました。

特に印象に残っているエピソードなどあれば教えてください。

子どもたちと職員の皆さんと一緒に、どんな表し方でプロジェクトに参加するかを考えたことです。学年カラーが“オレンジ”の3年生は「スマイルくんなんか、どうかな。」「いろいろな表情ができそうだよ。」などのアイデアが出て、子どもの思いが表れた、かわいらしい作品に仕上げることができました。（湯澤先生）



湯澤先生

壁画のテーマはどのようにして決められたのですか。



伊藤先生

校舎の思い出プロジェクトということで、学校全体が一つの大きなテーマで取り組めることを目指しました。しかし、こちら側から一方的に書く内容を決めてしまえば、校舎の壁に自由に絵を描くというプロジェクトのもつ魅力を半減させてしまいます。そこで、二条小学校の体育帽子の色をテーマにすることにしました。二条小学校は学年ごとに6色のカラー体育帽子を使用しているため、学年のカラー帽子の色から想像を広げ、子どもたちの発想を生かしながら活動できるようにしました。（伊藤先生）

学校の壁という本来描いてはいけない場所に、初めて子供たちが描いていくときはどのような反応でしたか。

私は、1年生を担当しているのですが、それはもう大喜びでした。「特別に、壁に絵を描いていいよ。」と伝えると、「えーっ、いいの？」「やったー！」と教室中から歓声が上がりました。子どもたちの中では、「壁に描いてはいけない。」という概念がありましたが、その枠を超えた活動に驚くとともに期待感が湧いているようでした。実際、すぐに「なに描こうかな。」と目を輝かせながら考えたり、話し合ったりする姿が見られ、「いつ描けるの？」と活動を楽しみにする声がたくさん聞かれました。（河本先生）

子供たちが撮影した写真をご覧になって、いかがでしたか。

校舎の壁に色を塗るといって、日常とかけ離れた活動に喜びを感じている様子がどの写真からも伝わってきました。また、子どもがカメラマンとなり撮った写真なので、とても自然な表情の写真が多かったことも印象的でした。（伊藤先生）

児童や保護者の皆さん、地域住民の方の反応はいかがでしたか。

来校してくださる方が驚かれています。そして、笑顔で「素敵ですね。子どもたちの学校への思いが表れています。」とおっしゃっていました。（牧野先生）



牧野先生

今後、「校舎の思い出プロジェクト」を国内の多くの小学校にて展開していきたいと考えております。このプロジェクトに今後期待することや、メッセージがございましたらお聞かせください。



中島校長先生

子どもたちの表現する力は、大人がおよぼもしい素晴らしいものを持っています。その思いが校舎というキャンパスに表すことができる機会をこれからも多く作ってくださることを願っています。思いをのびのびと全校児童で表現していくこの活動はとても子どもたちに感動を与えてきました。これからも開校や建て替え予定の学校の思い出づくりを応援してください。（中島校長先生）

プロジェクト作品



大判プリント作品

